

# 図書館情報学橘会会報 第14号(通号20号)

2013年3月発行 発行者 社団法人茗溪会支部図書館情報学橘会

## 風のように飄々と生きられた志村先生

図書館情報学橘会会長 森 茜

### 志村先生は 橘会の御最良さま

今年の冬は、異常に厳しい寒さだ。暮から都心でも雪が積もり、北日本は連日の大雪だ。その上、空風がすさまじく、枯れ木の梢がいやがうえにも震え、気温以上に寒さが厳しく感じる。そんな冬は、お年寄りにはとてもつらい。

正月の松もあけきらない1月7日(月)、突然、志村尚夫先生の訃報が飛び込んできた。

実は、昨年秋の橘会公開シンポジウムに姿をお見せにならなかったのが、内心、心配していたのだ。訃報に接して、やっばし、と、胸が痛んだ。細い、小枝のような先生の体には、この寒さはこたえたのだらうかと、痛む。

志村先生は、橘会の文字通りの常連だった。橘会の御最良さまだった。橘会の上客中の上客だ。総会の案内を出すと、真っ先に返事が来た。公開講演会の案内を出すと、すぐに返事が来た。返事はいつもハガキだ。この情報化の時代に、いつも手書きだ。それでいて、総会や公開講演会が始まっても、なかなか姿は現われない。そのくせ、気が付くと、いつの間にか、みんなと一緒に談笑の輪の中にいる。

談笑する姿は、飄々として、気取りがない。ふわふわとして身軽だ。偉ぶったところが微塵もなく、言われなければ、誰も大学の先生とは気が付かないだらう。学生思いで、気さくだ。

橘会に出席するときは、必ず懇親会まで出席した。卒業生の誰かれとなく面倒を見、会話を心から楽しんでいる。

橘会が、筑波大学と共催で、初めて筑波の春日キャンパスで公開講演会を企画した時、誰よりも喜んでくれた。そして、キャンパスツアーにも参加してくれた。母校を誰よりも愛していたかもしれない。

### 分類・目録の専門家から学校図書館へ

若い橘会会員の多くは、志村先生を恩師としてのみ接していて、実は、彼が橘会会員だと知っている者は意外と少なかったかもしれない。

しかし、志村尚夫先生は、早稲田大学法学部卒業後に、文部省図書館職員養成所(一年課程、昭和37年3月)を卒業した。そして、養成所の卒業生であることを誇りにしていた一人だ。図書館の現場を経験した後、昭和45年4月に図書館短大の講師になって母校に戻った。以後、昭和50年に短大の助教授になられ、短大が図書館情報大学になって同大の助教授に、そして、昭和60年に教授になられ、平成8年に退職された。図書館情報大の変遷そのものを生きてこられた。

図情大を退職後は、すぐに、十文字学園女子大学で教授となられ、平成13年で退職された後、平成23年まで、同大で非常勤講師を続けられ、生涯、現役で図書館学を教え続けてこられた。教え子も多く、一昨年開催された傘寿を祝う会には、両大学の教え子多数が参加し、賑やかな晩年を迎えられた。

志村先生の専門分野は、もともとは、目録法を得意とされていたが、文部科学省の「今後の学校図書館の整備の在り方に関する検討ワーキングチーム」の委員になられるなど、学校図書館への造詣が深く、読書と子供の豊かな人間性の育成に関して、ブームともいべき火付け役の一人だ。

志村先生は、橘会の当初からの会員で、橘会の活動に深い理解と協力を惜しみなく注いでくださった。たくさんの教え子や同窓生を橘会の催事の都度、お誘いくださった。

飄々と、風のように生きられ、爽やかな風の香を今でも漂わせておられる。感謝に尽きない。

## 志村先生の思い出

筑波大学図書館情報メディア系 松本浩一

私が初めて志村先生にお会いしたのは、図書館情報大学に助手として赴任した時でした。そしてその年から、さっそく志村先生の分類・目録の演習をお手伝いすることになったのですが、ここへ来る前に勤めていた筑波大学の学術情報処理センターで、出たばかりの MARC のデータをいじっていたことはありましたが、図書館学の目録法・分類法に本格的に取り組むのは初めてでしたから、同僚の緑川先生に教えを受け、苦労しながら演習に取り組みました。志村先生は最近でもあの頃とちっとも変わっていないように見えます。その意味では歳を超越したという言葉がぴったりなのではないかと思います。いつもあの飄々とした感じで、また話し好きで、よく研究室に呼ばれては、多方面にわたる雑談に時間をすごしたことを思い出します。これは誰も言われることですが、授業にはたいへんに熱心に取り組まれ準備も周到でした。先生のゼミには二年間ご一緒させていただきましたが、ゼミでは終始ニコニコされていて、あまり厳しいことも言われなかったのですが、専門のことになると厳しくまた饒舌になるところがありました。学会や研究会に出席されていた時も同様だったように思います。二年目にゼミ旅行（たし

か山中湖だったと思います）に行ったときの思い出は、特に懐かしく思い出されます。

退官なさってから、時々会を催したりしておられて、その時には、行くという返事を出していても、必ず来るようにとの電話がかかってきたことを覚えています。同僚であった和泉先生も、「志村さんに言われるといつの間にか引きこまれてしまう」と言っていました。あの人懐かしい笑顔で誘われると、確かにそうだったのかもしれない。

心残りなのは昨年先生の「図書館への道五十年」の記念パーティーがあった時、市ヶ谷のアルカディアの会場に行ったら、会場が閉まっていたあたりには知る人が一人もいませんでした。あわてて案内状を見直してみたら、なんと一日間違えていて昨日のことだったのです。そんなわけで、お会いする機会を逸してしまったのですが、その時にはまさかもうお会いする機会がなくなるとは思いませんでした。

しかしきっと志村先生はあちらでも、先に逝かれた同僚の先生たちに、あの笑顔で話しかけられているのだろうと、私ばかりでなく、先生を知る方たちは皆さんそう考えていられると思います。



## 酒井先生のライフ・ワーク

図書館情報大学名誉教授 竹内 哲

酒井先生がなくなって二箇月、長い間出版を待ち望んでおられたライフ・ワーク『甲陽軍鑑校注』の序冊（第1巻）が勉強出版から世に出た。先生の莞爾たるお姿が目につく。

先生に初めてお目にかかったのは、図書館情報大学の開学準備委員会の時であった。それから35年、隔意のない間柄であった。働きながら学んで、小学校から高等学校までの諸学校に勤め、更に大学に籍を置くという経歴の類似と、同年齢の誼もあり、さらに人の成熟と成長とを、幼時から老年期までの長い連鎖の中に見ようとする仲間でもあった。

酒井さんが小学校一年の時、北陸の吹雪にもめげず登校したら担任の先生が「ナ・ニ・ク・ソ」の4字を板書して励ましてくれたという。「これが一生の支えになった」と述懐されたことがある。この4字は、国語学を学んだ後に、昼間は恩師・山田忠雄博士の助手として明解国語辞典の編集を助け、夕方からは都立高校で国語を教えるという苦闘の中でも、また、近年の療養の痛みや不自由さの中でも、常に酒井さんを支えたことであろう。療養先から時折頂く電話や手紙に、それがしのばれた。

1966年、38歳の先生は、乞われて新設の山梨県立

女子短期大学に赴任された。山梨県立図書館が収集した『甲陽軍鑑』に、版による違いが大きいことに着目され、20年余りの研鑽の結果、『甲陽軍鑑の成立と資料性』をまとめられ、文学博士号を得られた。さらに『甲陽軍鑑大成』8巻の大著によって、幾つもの学会賞を受けられたのである。従来、小幡景憲による偽書とされてきた本書を、書誌学と語学とによる検討の結果、武田信玄の直臣高坂弾正昌信の口述を筆記したものの、という断案を下され、小幡景憲には、それを伝承し普及したものという新しい地位を与えられた。それが学界の定説となった。先生の学問上の貢献は極めて大きい。その上にさらに、9巻に及ぶ校注本を計画、執筆されたのであった。

その酒井さんから手紙が来て、この著作の推奨文を3人に依頼する。その一人として書くように、といわ

れた。他のお二人は国語学と歴史学の専門の方、門外漢は私だけである。躊躇したけれど、その真率な依頼のゆえに断ることができなかった。そこで、酒井さんの篤実な学風と、それを築き上げられるまでの「ナ・ニ・ク・ソ」に支えられた苦闘、更に非常な多面性を持つ『甲陽軍鑑』の内容をわれわれに読めるようになさったことへの敬意を、書簡という形で送った。推奨文として異例ではあるが、それ以外の表現方法は思いつかなかった。酒井さんから「よく書いてくれた」と丁寧な返事を頂いた。

校注本は、丁寧なつくりである。かつての図書館情報大学の研究室でのように、酒井さんは今この本の中におられる。われわれはそこに先生を訪ね、お声を聴き、お話を伺うことができる。それをこれから毎日しようと思っている

※※※

### ◇永年のご薫陶ありがとうございました◇

平成25年3月を持ちまして以下の3人の先生方が筑波大学(図書館情報メディア系)を退職されます。植松貞夫先生と葉袋秀樹先生から退職にあたってご寄稿いただきました。

植松貞夫・教授

【専門】建築計画学、図書館情報学【授業】図書館建築論、図書館施設計画論ほか

田中和世・教授

【専門】音声音響情報処理、デジタル信号処理【授業】音声・音響メディア処理、音声情報処理ほか  
葉袋秀樹・教授

【専門】図書館情報学、公共図書館論【授業】公共図書館特論、図書館論ほか

☆☆☆

### 退職にあたって

筑波大学図書館情報メディア系 植松 貞夫

橘会会員の皆様、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。私の定年退職の順番となりました。1974年5月以来38年、筑波大学→図書館情報大学→筑波大学の教員生活でした。特に、図書館情報大学は開学から閉学までの25年間を通して在籍した唯一の者となりました。ただし、正確には図書館情報大学の開学は、学生受入の半年前1979年10月1日で、その時には着任していませんでしたが、キャンパス

プランへの関与や第一期生の入学試験の監督補助などをしましたので、「ほぼ全期間」ということでお許しいただきたいと思います。1980年4月1日に教員が何名いたか存じませんが、私と伊藤哲郎(現大分大学教授)、遠藤卓郎(現筑波大学体育系教授)とが若手助手トリオでした。仮の教員室は唯一の建物であった講義棟1階の103教室で、小中学校の職員室のような大部屋に、出勤率の高い我々だけが壁際

に並ぶ机に向かっている日々でした。しかし、研究室棟が建設され個室に分散することになる2年後までの間、新しい大学の確立に向けて、少ない人数の教職員全員が高揚感を共有していることが実感できたのは、そのような環境であったからこそでもあります。また、フォーマル・インフォーマルを問わず繰返された「図書館情報学とは何か」を始めとするさまざまな議論は、活気と熱気に満ち、かつ専門外の世界を知ることができて、その後の私の教員生活にとって貴重な資産となりました。



植松先生退職祝賀会

1998年4月に森茜会長が事務局長として着任されて以来の8年あまりの間、大学はまさに激変期でした。私は、博士課程大学院情報メディア研究科の開設（2000年4月）、筑波大学との統合（2002年10月）

は吉田政幸学長のもと田畑先生と共に副学長として、国立大学の法人化と図書館情報大学の閉学（2004年4月）は、筑波大学の図書館情報専門学群長であり図書館情報大学の図書館情報学部長として、そして2011年の東日本大震災からの回復は図書館情報メディア研究科長として深く関与いたしました。その時々で喜怒哀楽いろいろなことがありましたが、得難い体験の日々であったと思っております。諸先輩、教職員ならびに同窓会の皆様のご協力に感謝いたしますと同時に、私の至らなさに起因する課題も含め、全ての国立大学、筑波大学全体、そして我々の教育研究組織のいずれにも、今もこれからも、より一層の努力と団結心で取り組まねばならない課題が次々と課されてくるであろうことから、知識情報・図書館学類、大学院図書館情報メディア研究科の教育と研究へのご支援を改めてお願いいたします。

さて私はもう暫く、私立大学で司書資格取得を目指す学生の教育に携わる予定です。その一方で、これまで同様に図書館建築の質の向上に取り組んでいきたいと思っております。昨今、自治体の図書館建設構想の委員会に参加すると、一度は「情報流通のインターネット化や電子書籍が普及するから、図書館を建設する必要はないのでは」という意見がでてきます。こうした風潮に抗して、本への愛情とサービス精神を有する図書館員の卵を育て、知識の集積への畏敬の念が溢れるような図書館空間を創っていきたいと考えています。

末筆ながら皆様のますますのご発展を祈念いたします。ありがとうございました。

☆☆☆

## 「すぐれた本を読むこと」の意味

筑波大学図書館情報メディア系 薬袋秀樹

私は、1983年に図書館情報大学に採用され、筑波大学と合わせて、ちょうど30年間大学に勤務しました。大学（経済学部、文学部）卒業後、東京都立図書館に7年間勤務し、その後退職して、大学院の修士課程と博士課程に合計4年間在学し、就職しました。皆様のおかげで、無事に任期を終えることができました。本当にありがとうございました。

ました。

退職を前に、自分の人生を振り返ってみると、学生時代をはじめ、その時々ですぐれた本にうまく巡り合い、それらの本に助けられてきたことに気付きました。

学生時代に読んだ本で、特に印象深かったものには、まず、丸山真男『現代政治の思想と行動』

があります。この本は、当時既に名著として有名でした。ほかに、中島嶺雄『現代中国論』、シモーヌ・ウェーユ『抑圧と自由』、ヴィクトル・フランクル『夜と霧』『死と愛』などがあります。

社会人になってからは、デイビッド・ハルバースタム『ベスト&ブライテスト』、中根千枝『タテ社会の人間関係』、戸部良一ほか『失敗の本質』、バーバラ・タックマン『愚行の世界史』、ポール・ジョンソン『インテレクチュアルズ』などがあります。

現実を鋭く的確に分析している本を見つけ出し、それを読むことによって、ものごとに対する批判精神、幅広い多様な視点、深く掘り下げる考え方が理解できます。大学2年生の後半からは、大学で政治運動が盛んになってきましたが、上記の本によって、社会や政治の複雑さ、政治イデオロギーの不毛さ、後の評価に耐え得る人間の行動の難しさを学び、慎重な行動が必要であることが理解できました。周囲にはいろいろ苦勞していた学生

もいましたが、私はそれほど苦勞しないで済みました。社会人になってからも、これらの本のおかげで、何とか社会の変化に対応することができました。

学生時代に集中して本を読む時間を作ったことは本当によかったと思います。一時期、授業のない日に、公共図書館で一日本を読んでいたことがありました。公共図書館を、最初は読書スペースとして、次は、すぐれた本を探すために利用しました。『現代政治の思想と行動』は公共図書館の書架上で見つけたものです。

このような経験から、読書と図書館の重要性を痛感するようになりました。図書館で働くには、読書が役に立った何らかの経験が必要であり、学生の皆さんには、何らかの形でこのような体験をしてもらう必要があるのではないかと考えてきました。退職を契機に、改めて「すぐれた本を読むこと」の意味を考えてみたいと思っています。

## ◇橋会 筑波大学生に海外研修支援◇

### 平成 24 年度図書館情報学海外研修助成

橋会では、筑波大学の「図書館情報学振興会」を継承し、海外からの留学生との懇親会と海外への留学生の研修への助成を目的とする「筑波大学支援図書館情報学振興基金」を設置しています。知識情報・図書館学類、図書館情報専門学群、図書館情報メディア研究科の公募および審査にもとづいて、平成 24 年度は、次の 3 名の図書館情報学海外研修助成を実施しました。以下、研修者(敬称略)、所属・学年、研修期間、目的地、目的。

- ・ **石岡 瑞菜** 知識情報・図書館学類 4 年 H24.11.8-15 (ラオス人民民主共和国) 卒業研究テーマ「日本の NGO による開発途上国の図書館への支援活動—公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の取り組みに着目して—」の訪問調査及びインタビュー調査
- ・ **水上 柚香子** 知識情報・図書館学類 4 年 H24.9.3-12 (アメリカ) 卒業研究テーマ「公共図書館における資料選択のアウトソーシング:ハワイ州の事例から」の文献調査及びインタビュー調査
- ・ **八巻 龍** 図書館情報メディア研究科博士前期課程 1 年 H24.11.23-12.2 (デンマーク) 「デンマークにおける学校図書館での情報教育環境」の訪問実態調査

報告書は <<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/students/training.html>>をご覧ください。

## ☆公開シンポジウム「——絆——図書館と震災を語り継ぐ」報告☆

2012年、筑波大学と図書館情報大学は統合10周年を迎えました。橘会ではこれを記念して、筑波大学東京キャンパスでシンポジウムを開催しました。

シンポジウムのテーマは「——絆——図書館と震災を語り継ぐ」です。この時点で東日本大震災から1年半が経過していましたが、被災地では文化的な生活とは程遠いところも多い状況でした。そこでこのシンポジウムでは、文化生活の拠点たる図書館の災害に関わる役割について考えました。

最初に、日本図書館協会の西村彩枝子さんから被災地図書館の状況についての基調講演をいただきました。基調講演に続いて、震災で被災したり、復旧に携わってきた卒業生・在校生8人にそれぞれの経験を語っていただきました。時間の都合で短時間にまとめたいただきましたが、もっと時間をかけて伺いたい内容ばかりでした。特に若手の卒業生が堂々と講演される様子は大変頼もしく感じました。後半では、中山伸一先生の司会により、会場参加者も交えた意見交換を行い、活発な意見が交わされました。また、会場ロビーには、日本図書館協会のご協力により被災地の写真を多数展示しました。シンポジウム参加者だけでなく、たまたま通りかかった学生等が、真剣な面持ちで見ていたのが印象的でした。



図書館被災状況の展示

三連休の中日であるにもかかわらず、60名超の方にご来場いただきました。橘会では今後も震災と図書館について考えていきたいと思っております。

—— シンポジウム プログラムなど ——

日時：2012年10月7日（日） 14時～17時

場所：筑波大学 東京キャンパス文京校舎 B1F 多目的講義室1

主催：国立大学法人筑波大学 図書館情報メディア系、同 図書館情報メディア研究科、同 知識情報・図書館学類、(社) 茗溪会支部図書館情報学橘会

### 【プログラム】

司会：茂出木理子 東京大学駒場図書館 / 橘会理事 (1985年図情大卒)

### 開会あいさつ

筑波大学図書館情報メディア系長 松本紳

### 来賓あいさつ

(社) 茗溪会 常務理事 田中正造

### 基調講演 (20分)

「図書館 被災状況とその役割」

西村彩枝子 (にしむらさえこ)

社団法人日本図書館協会 東日本大震災対策委員会 (1969年図短大卒)

### ショートスピーチ (10分×8名)

「東日本大震災 あの時、私は…」

佐藤あづみ (さとうあづみ)

岩沼市民図書館 (2001年図情大卒・2003年図情大修士修了)

「福島大学における東日本大震災後の活動」

芦原ひろみ (あしはらひろみ)

福島大学学術情報課 (1998年図情大卒)

「筑波大学附属図書館震災復旧ボランティアに参加して」

西野祐子 (にしこのゆうこ)

筑波大学情報学群知識情報・図書館学類 在学中

「saveMLAKプロジェクト ～社会教育・文化施設の救援・復興の支援～」

江草由佳 (えぐさゆか)

国立教育政策研究所教育研究情報センター / saveMLAKプロジェクト システムチームリーダー

(1998 年図情大卒・2000 年図情大修士修了・2004 年筑波大博士後期修了)

「震災復旧ボランティアの経験から思うこと」  
嶋田綾子 (しまだあやこ)  
いとか図書館ラボ (2004 年図情大卒)

「メディアによる復興支援」  
神田茂 (かんだしげる)  
日本経済新聞社デジタル販売局 (1985 年図情大卒)

「盛岡大学被災地図書館支援プロジェクト活動について」  
千錫烈 (せんすずれつ)  
盛岡大学文学部 (2007 年筑波大修士修了・筑波大博士後期在学中)

「東北大での震災当日の行動とボランティアとの協働による復旧活動」  
小陳左和子 (こじんさわこ)  
一橋大学附属図書館、前東北大学附属図書館 (1987 年図情大卒)

#### ☆懇親会報告☆

大橋会公開シンポジウム終了後、会場を近くのイタリア料理店に移して懇親会が開催されました。大橋会が東京の茗荷谷にある筑波大学文京校舎で開催されたこともあり、幅広い世代から約 30 人の方が参加されました。会場のあちこちで久しぶりの再会を懐かしむ光景が見られ、盛況のうちに終了しました。

※※※

#### ◇会報第 13 号訂正◇

会報第 13 号掲載の記事「統合 10 年後の知識情報・図書館学類」に誤りがございました。訂正後の記事は橋会ホームページで御覧いただけます。会員の皆様及び執筆者の長谷川先生にご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

#### ☆Facebook に図書館情報学橋会のページを作成しました☆

SNS の facebook に橋会のページを作成しました。同窓会の皆さまとのつながりを更に深めていきたいと願っております。ご利用下さい。

<http://www.facebook.com/lib.info.tachibanakai>

休憩 (10 分)

#### パネル討議 (60 分)

基調講演・ショートスピーチの講演者全員と会場参加者との意見交換

モデレーター：中山伸一 (なかやましんいち) 筑波大学附属図書館長、橋会顧問



パネル討議

#### 閉会あいさつ

(社) 茗溪会支部図書館情報学橋会 会長 森茜



## 平成 24 年度分会費納入のお願い

平成 24 年度分の会費につきまして、今年度未納入の会員におかれましては、以下の郵便振替口座または銀行口座宛に納入くださるようお願いいたします。

なお、通常会員の会費は 3,500 円です。また通常会費完納者(35 回分納入済みの方)には、橘会円滑な運営のため橘会固有の協力会費 2,000 円を維持費としてお願いしています。

郵便振替 口座番号 00110-5-656101  
加入者名 図書館情報学橘会

銀行振込 ゆうちょ銀行 〇一九店 (ゼロイチキユウ店)  
口座番号 0656101  
預金種目 当座  
口座名義 トシヨカンジヨウハウガクタチバナカイ  
\*「振込依頼人名」欄に会員番号の入力をお願いします。

## ◇会員現勢◇

### 1. 会員数

1,694 名 (平成 24 年 9 月 30 日現在)

### 2. 卒業校別内訳

卒業校	人数
文図教習所	1
文図講習所	66
国図附養	1
文図養成所	79
文図養成 A	165
文図養成 B	64
文図養成 1 B	3
文図養成 2 B	11
図短付養成	21
図短特養課	125
図短図書館	314
図短文献情	79

図大図情専	11
図大図情	536
図大図情修	18
図大博前期	11
図大博後期	1
筑図	143
筑博図情修士	3
筑博図後期	3
筑博図前期	3
筑知図	36
文図教習所	1

3. 新入会員は今年度卒業生から入会金廃止。  
会費 3 年間免除  
(以下、HP 掲載では省略)

以上

## 社団法人茗溪会支部図書館情報学橘会

〒305-8550 つくば市春日 1-2 E-mail info@tachibana-kai.com

公式ホームページ <http://www.tachibana-kai.com/index.html>

発行: 2013 年 3 月 1 日